

## 人骨問題と陸軍軍医学校

2019年7月21日

川村一之

人骨発見30年集会

於 戸山サンライズ

01 陸軍軍医学校跡地で発見された「人骨」とは

02 人骨発見場所（新宿区戸山）

03 発見現場は「陸軍軍医学校」跡地（別紙参照）

04 厚生労働省が納骨式举行

05 「人骨」は「現状のまま保管」

- ・1989年 人骨発見
- ・1992年 佐倉鑑定
- ・2001年 厚生労働省報告
- ・2002年 納骨施設に保管
- ・2011年 発掘調査
- ・2012年 再度発掘調査

06 「人骨」の鑑定 1992年4月

- ・感染実験の痕跡なし
- ・広い意味で人体実験

07 厚生労働省の「人骨由来調査」 2001年6月

- ・軍医学校の関与を認定
- ・戦後処理の調査は否定

08 厚労省の防疫研究室跡地発掘調査 2011年

09 財務省の整形外科教室発掘調査 2012年

- ・目的一埋められたとされる人骨（人体標本）の有無の確認
- ・結果一人骨（人体標本）は発見されず、埋められていなかったことが確認された



## 10 陸軍軍医学校と軍陣病理学

- ・1929年 陸軍軍医学校、牛込に移転
- ・1931年 「満州事変」勃発
- ・1932年 整形外科新設・防疫研究室設立
- ・1936年 関東軍防疫部（731部隊）
- ・1937年 日中戦争
- ・1938年 厚生省発足（国民体力の向上）
- ・1941年 病理学会で標本供覧（戦場での解剖数は2000体、内200体を運ぶ）
- ・1945年 肉眼標本300個、戦災で焼失
- ・1956年 戦傷標本を衛生学校に移管

診療患者数（昭和7年1月21日より昭和9年3月31日） 陸軍軍医学校診療部（『陸軍軍医学校五十年史』p177より作

科別	主任	勤務期間	診療患者延数	%
外科	二等軍医正 小宮山友則	自昭7. 1. 21 至昭8. 11. 30	2,000	2.340%
	同 竹内 釧	自昭7. 1. 21		
眼科	三等軍医正 松田 彰	自昭7. 1. 21	28,373	33.250%
耳鼻科	同 斎藤 勤	自昭7. 1. 21	25,944	30.400%
皮膚科	同 細谷 清	自昭7. 5. 15	236	0.276%
口腔外科	一等軍医正 三内多喜治	自昭7. 4. 1	5,342	6.260%
レントゲン科	三等軍医正 三好 春來	自昭7. 1. 21	254	0.300%
整形外科			23,189	27.170%
計			85,338	100.000%

備考 本表の外、診療部内科に於いて診療したる患者は180名あり

## 11 関係者の証言

- ・「人体実験を行なった」 湯浅軍医
- ・「標本を収集」 神林軍医中尉
- ・「軍医学校に届けた」 奥村軍医
- ・「731部隊に生首」 少年隊員
- ・「731部隊から送ってきた」 上田軍医学校教官
- ・「防疫研究室の屋上で見た」 元軍属

## 12 身元確認と真相究明

### ■舛添厚生労働大臣

「今大切に保管されています人骨の身元確認、これはさらなる技術革新その他の手を用いまして、できるだけ身元確認につながるような努力を今後とも続けていきたいと思えます。」 衆議院厚生労働委員会（2008年5月14日）

## 13 身元確認と真相究明の課題

1. 「人骨」のDNA鑑定と安定同位体比検査

ミトコンドリア DNA 鑑定 (母系血縁) 生前の生活環境

2. 頭蓋骨の 3 次元データ測定
3. 死因確認の法医学鑑定
4. 現存する戦傷標本の实地調査  
陸上自衛隊衛生学校が保管
5. 四肢骨の再鑑定  
戦傷者の切断手術としては不自然
6. 文献調査

#### 陸軍軍医学校沿革

- ・ 1869 年 大阪軍事病院内に設置
- ・ 1872 年 軍医寮学舎 (東京市麹町)
- ・ 1873 年 軍医学校に改称、後に廃止
- ・ 1886 年 陸軍軍医学舎新設
- ・ 1888 年 麹町区富士見町に移転  
陸軍軍医学校に改称 (医師を軍医)
- ・ 1923 年 関東大震災で被災
- ・ 1929 年 陸軍軍医学校、牛込区に移転
- ・ 1936 年 陸軍軍医学校 50 年

#### 14 医師を軍医に教育する陸軍軍医学校

1. 佐官学生 上級幹部養成 1 ヶ月半 1942 年以降中止
2. 甲種学生 定員 40 名 乙種修学 1、2 等軍医・薬剤 1 年
3. 長期学生 甲種修学 1 年
4. 乙種学生 定員 100 名 初任の軍医・薬剤・歯科医 1 年
5. 丙種学生 衛生部少尉候補者 1 年 「レントゲン」・防疫
6. 丁種学生 防疫給水要員ノ補充教育 3 ヶ月
7. 衛生部甲種幹部候補生 半年
8. 軍医候補生 動員学徒 大学・医専卒業資格 1945 年
9. このほか衛生部幹部候補生教育に関東軍衛生下士官候補者教育隊 (新京)、北支那衛生教育部 (北京)、南方軍衛生教育部 (昭南) を 1942 年に開設。 注: 歯科医将校制度は 1940 年 4 月、入校は 1942 年 4 月から。

#### 15 乙種学生数の変遷

1932 (昭和 7) 年	78 名
1933 (昭和 8) 年	98 名



1935 (昭和 10) 年 109 名

1944 (昭和 19) 年 366 名

1945 (昭和 20) 年 5 月 380 名 25 期 期間 5 ヶ月に短縮

1945 (昭和 20) 年 8 月 330 名 26 期 期間 4 ヶ月に短縮

\*26 期 「国土決戦教令」 — 「決戦間傷病者は後送せざるを本旨とす。(中略) 戦友の看護付添は之を認めず。衛生部員は第一線に進出して治療に任ずべし」

\*26 期生は敗戦で軍医になれず、戦後の公職追放を免れる。

#### 16 乙種学生教育課目 (1942 年の教育綱領改定) 職員表参照

軍陣衛生学とは - 「軍事に関する衛生学である」(小泉親彦)

- (1) 戦術及戦史 (1942 年教育綱領改定で重要視)
- (2) 軍陣衛生要務
- (3) 軍陣衛生学 (含 化学戦・航空医学) 本流 (森林太郎・小泉親彦)
- (4) 軍陣防疫学 (含 細菌戦・防疫給水) 傍流 (石井・増田知貞・内藤)
- (5) 戦傷学 手術演習
- (6) 軍隊病学
- (7) 選兵医学
- (8) 軍陣航空医学 (1942 年教育綱領)
- (9) 軍陣熱帯病学 (1942 年教育綱領) 防疫
- (10) 軍陣病理学 (1942 年教育綱領) 病理解剖 平井正民
- (11) 体操及剣術
- (12) 馬術
- (13) 外国語

臨床医学・国際法 (含 赤十字条約) (1942 年教育綱領改定で削除)

#### 17 敗戦前後の陸軍軍医学校

1945 年 3 月 山形県に疎開を決定

3 月 10 日 東京大空襲 救護班を派遣

3 月末 山形へ輸送開始

4 月 13 日 空襲 旧陸軍幼年学校 (乙種)・防疫研究室 焼失

4 月 24 日 乙種学生、山形へ疎開

5 月 25 日 空襲 学校本館・八角講堂・教室・診療部 焼失

衛生学教室・図書館・整形外科別棟 残存

焼け残った図書館を本部として使用

8 月 15 日 敗戦

8 月 22 日 原爆調査班派遣を決定

9月2日 復員(11月26日省令で廃止 1886年の陸軍軍医学舎発足以来60年)

18 陸軍軍医学校の出先・疎開状況(1)

(1) 山形 学校本部・研究部・学生隊(山形高等学校) 1945/4/24

病理学教室分室(山形高等学校理科教室)

乙種学生(山形高等学校)

丁種学生・短期現役軍医・防疫学教室(山形師範学校)

幹部候補生隊(寒河江中学)

軍医候補生隊(新庄 沼田小学校ほか)

衛生学教室(天童高女)・衛生下士官教育隊(天童)

碧素研究所・診療部(上山温泉 本部 村尾旅館)

軍医団雑誌印刷工場(大江町左沢)

衛生史編纂準備室(大江町本郷)

標本館(山形盆地に分散秘匿)

(2) 宮城 陸軍軍医学校分校(宮城県鬼首村) 1939 計画は消滅?

19 陸軍軍医学校の出先・疎開状況(2)

(3) 山梨 薬学教室(甲府分教所「山梨工業専門学校・山梨師範学校」)

1945/2

航空医学研究所(富士山頂)

— 「軍陣衛生学教室富士分業室」 1938/8/24

(4) 新潟 防疫研究室(新潟出張所「新潟(関屋)競馬場」) 1944/4/6

防疫研究室実験場(白根大郷・信濃川中州)

(5) 千葉 防疫部(中山出張所「中山競馬場」) 1944/4/6

衛生学教室・化学兵器研究室(檜葉実習場) 1945/1

(6) 福井 菌科学教室(鯖江?)

(7) 京都 伏見出張所・松風工業(濾水器検定) 1945/3/24

(8) 東京 渋谷分室(乾燥人血漿製造) 1943/4

(9) 長野 臨時東一病院小諸分院(病理学教室肉眼標本)

20 軍医学校本部が疎開した山形市(1)

21 軍医学校本部が疎開した山形市(2)

22 幹部候補生隊が疎開した寒河江市(1)

23 寒河江市に残る陸軍病院壕跡(2)

24 軍医団雑誌印刷工場が疎開した大江町(1)

25 衛生史編纂準備室が疎開した大江町(2)

- 26 薬学教室が疎開した山梨県甲府市
- 27 陸軍軍医学校ペニシリン委員会
- 28 富士山頂の「航空医学研究所」
- 29 防疫研究室の新潟出張所「新潟競馬場」(1)
- 30 防疫研究室の新潟出張所「新潟競馬場」(2)
- 31 防疫研究室の実験場(信濃川中州)
- 32 防疫部の中山出張所「中山競馬場」(1)
- 33 防疫部の中山出張所「中山競馬場」(2)
- 34 毒ガス演習が行われた「檜葉実習場」
- 35 濾水機検定場の「伏見出張所」と「松風工業」
- 36 石井式濾水機と素焼濾過筒
- 37 石井式濾水機と日本特殊工業
- 38 素焼の陶器爆弾「宇治式爆弾」
- 39 乾燥人血漿の製造所「渋谷分室」

#### 40 「軍陣医学」が教える非人道主義

##### ■第一条

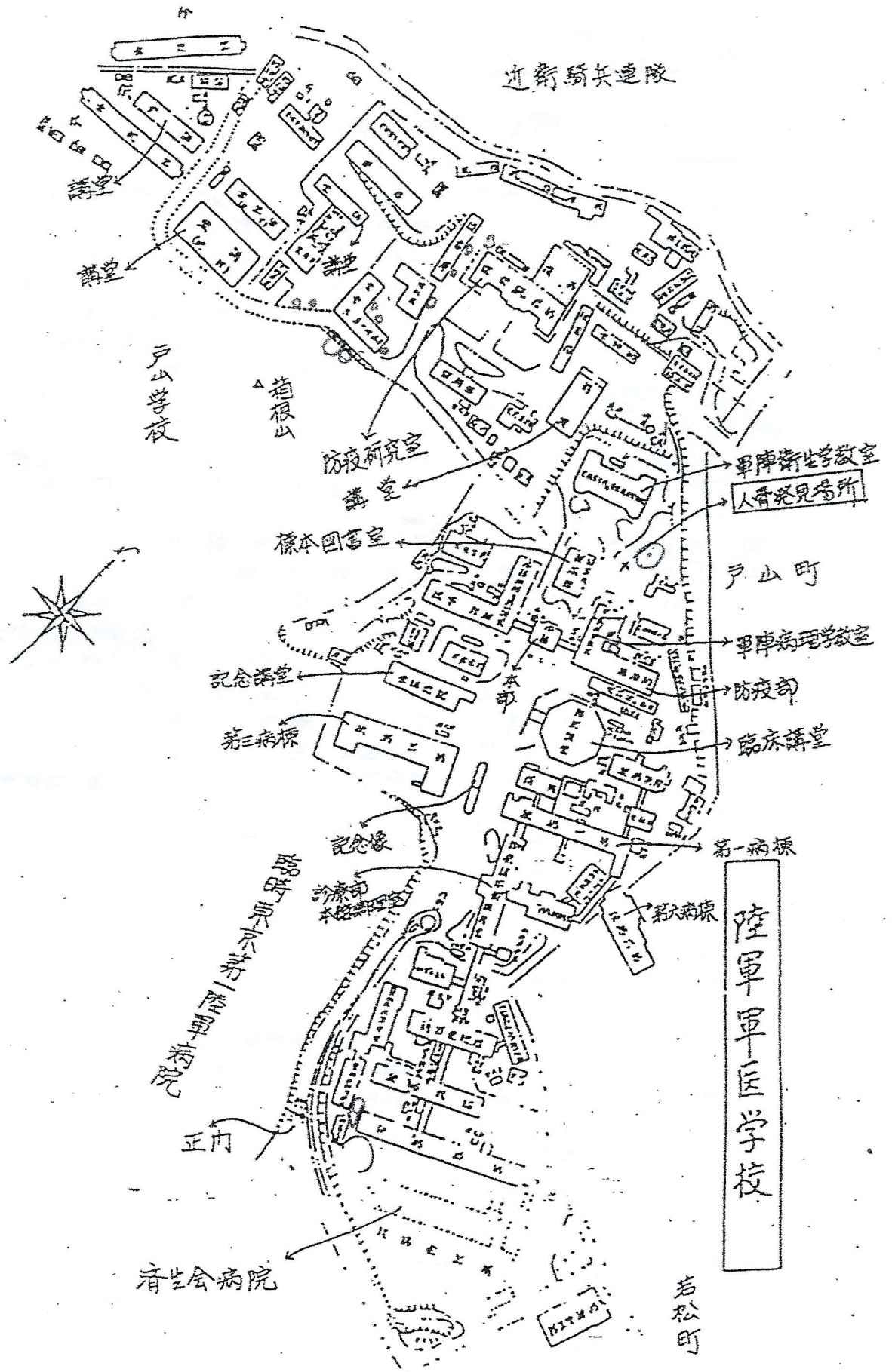
すべての人間は、生れながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。人間は、理性と良心とを授けられており、互いに同胞の精神をもって行動しなければならない。(世界人権宣言 1948年)

#### 41 「軍陣医学」が教える自国第一主義

■われらは、いづれの国家も、自国のことのみに専念して他国を無視してはならないのであつて、政治道徳の法則は、普遍的なものであり、この法則に従ふことは、自国の主権を維持し、他国と対等関係に立たうとする各国の責務であると信ずる。(日本国憲法「前文」1947年)

七三一部隊は人体実験で使用した被験者を「丸太」と呼んでいた。「丸太」と呼ぶことは被験者を人と見ていないことを意味している。戦争は人を人と見ないことが必要とされる。人は人であっても人ではなく、すでに駒になっている。それと同じように軍医は医師であるが医師ではなく軍医なのである。





石井十世

昭和二年八月二十六日調

2-18

校長 鹽山 憲佐	內科	教授 中村 順一	第一學部 北川 順
本部長 三正	教官 三正	部員 三正	同 中山 雄次
副官 三正	教授 三正	部員 三正	同 山口 誠太郎
同 附 二正	教授 三正	部員 三正	同 清水 寅次郎
同 同 三正	教授 三正	部員 三正	同 草味 正夫
同 同 三正	教授 三正	部員 三正	同 堀 隆二
同 同 三正	教授 三正	部員 三正	同 石井 四郎
同 同 三正	教授 三正	部員 三正	同 北川 正隆
同 同 三正	教授 三正	部員 三正	同 渡邊 康
同 同 三正	教授 三正	部員 三正	同 堀田 矩
同 同 三正	教授 三正	部員 三正	同 北條 圓了
同 同 三正	教授 三正	部員 三正	同 白川 初太郎
同 同 三正	教授 三正	部員 三正	同 石松 榮
同 同 三正	教授 三正	部員 三正	同 淺見 哲堂
同 同 三正	教授 三正	部員 三正	同 細谷 清
同 同 三正	教授 三正	部員 三正	同 鷹津 冬一
同 同 三正	教授 三正	部員 三正	同 池井 夏夫
同 同 三正	教授 三正	部員 三正	同 三内 多喜治
同 同 三正	教授 三正	部員 三正	同 松本 寅治
同 同 三正	教授 三正	部員 三正	同 三好 益來
同 同 三正	教授 三正	部員 三正	同 山口 吾一
同 同 三正	教授 三正	部員 三正	同 三好 益來
同 同 三正	教授 三正	部員 三正	同 中田 金藏
同 同 三正	教授 三正	部員 三正	同 渡邊 建
同 同 三正	教授 三正	部員 三正	同 加藤 真一
同 同 三正	教授 三正	部員 三正	同 松南 千壽
同 同 三正	教授 三正	部員 三正	同 平松 源一

備考 (外) 外國宏張者 (卷六) 滿洲派遣中、者、示又